



1999-2019

旧ユーゴ戦争から20年

―後続の侵略戦争の始まり

『月刊まなぶ』企画編集委員 富山 栄子



続く地域戦争

去る3月20日、ボスニアでのジェノサイド＝集団虐殺などの罪に問われて、ラドバン・カラジッチ（1945―）被告がオランダ・ハーグの旧ユーゴスラビア国際戦犯法廷＝ICTYから終身刑の判決を出されました。被告は、犯罪には関与していないと主張さらにICTYはNATO法廷であるとの立場を維持しました。ボスニア戦争は1992―95年の戦争であり、24年が経っています。

第二次大戦でユーゴスラビアの領土はドイツを中心とした枢軸国に侵攻され、地域に住む諸民族は多大な人的被害を出しながらパルチザン闘争を闘いました。抵抗運動指導者であったチト（オーストリア・ハンガリー帝国下のクロアチア生まれ）が首相に選出され、1945年、ユーゴスラビア社会主義連邦共和国が成立しました。冷戦下では非同盟運動を進めました。90年代にソ連邦・東欧の社会主義圏が解体されると、多民族の連邦共和国は内戦状態に陥り、分離独立が始まりました。現在はセルビア／スロベニア

／クロアチア／ボスニア・ヘルツェゴビナ／モンテネグロ／北マケドニアに分裂しています。

99年には3月24日から6月10日まで、国連安保理の承認もいまま、米・NATOが「人道的介入」としてセルビア・コソボを空爆、軍は非加盟国の旧ユーゴスラビアに域外派遣されました。B52爆撃機はじゅうたん爆撃を行い、首都ベオグラードへの出撃では中国大使館を攻撃、職員も犠牲になりました。軍事関連施設だけでなく、橋、工場、発電所、通信施設、政党本



旧ユーゴ紛争

部など民間施設も標的になり、居住地域に劣化ウラン弾も使用されました。一国の主権を蹂躪した侵略戦争は国連安保理決議1244によって終わりましたが、コソボには欧州最大のボンドステイール米軍基地が建設されました。その後、ブルガリア・ルーマニア・バルト海地域にも米軍基地が作られ、今日ではロシア包囲網が出来上がっています。

欧州でのこの戦争は01年の対アフガニスタン、03年の対イラクへの戦争と続き、リビア・シリア・イエメンへと拡大しています。いずれの戦争も収束の兆しはありません。つまり、今日、第二次大戦の結果生まれた「国連憲章」の原則である「国家主権」は蹂躪され、「国際法」は違反され続けてきているということです。保護主義の台頭、グローバル規模の緊張により、世界は分極化しつつあります。最近の米中貿易関係、米国の「イラン核合意」と「INF条約」の一方的破棄、英国のEU離脱はその例でしょう。

地域協力の重要性

中国の習近平国家主席が三月末に欧州を訪問、経済圏構想「二帯一路」について戦略的連携を進めています。イタリヤ政府は支持を表明、両国首脳は23日、覚え書きに合意しました。鉄

道・港湾・物流・エネルギー・海運・航空宇宙・農業・環境・医療などの分野で19本の合意が調印されました。

一方の西半球です。米政府がベネズエラに制裁を強め、軍事侵攻まで「オプシヨン」にしています。しかし、隣国のブラジルもコロンビアも軍の展開には反対、親米集団の「リマ・グループ」も同様です。過去200年にわたって米支配層が立脚してきた「モンロー・ドクトリン」、つまり「西半球は北米のものだ」に陰りが出てきます。ベネズエラで暫定大統領と自ら宣言した人物は、宣言から1カ月以上経っても大統領選挙を行うとも言っていない。米同盟国がクーデター勢力を支持したところで、ベネズエラ国民の多数は現政権支持です。チャベス元大統領の「地域統合」は困難の中にも前進していくでしょう。

(とみやま えいこ)